

成人 SEIJIN

特集

再び、能登半島へ



青年会旭日分会は2月28日から3月2日にかけて、能登半島災害救援ひのきしんに出動させていただきました。今回は8名の出動で、その内の3名は初出動でした。

今回の災害救援ひのきしんは、
昨年年9月の役員先生方を含めた有志隊、
同年11月の青年会旭日分会の有志隊に引き続き、
第3次隊としての出動となりました。

前回の訪問時よりも倒壊したままの家屋は少し減り、仮設住宅が増えたような印象があり、遅々たる歩みながら復興が進んでいる事を実感しました。

しかし、まだまだ手が付けられていない場所が多く存在し、もどかしい感情と再訪の決意を抱かざるをえませんでした。

この度の出動にあたり、皆様方にはカンパ金のご提供や空き缶回収へのご協力など、さまざまな面でお力添えをいただき、誠にありがとうございました。

今号も参加した青年会員の感想レポを掲載しております。
ぜひご一読ください。



「がんばろう 石川！」

山村 光生（道野元分会）


2024年元日に起きた能登半島地震、同年9月の豪雨。同じ地域で災害が相次ぎ、多くの方の生活や命が失われ、1年以上経過した今でも仮設住宅で日々を過ごされている方がいます。自分にも何かできることがないかと、救援ひのきしんに参加させて頂きました。

私は昨年11月にも救援ひのきしんに参加し、そこで目の当たりにしたのはひび割れた道路や隆起した地面、倒れたままの電柱、倒壊した家屋、そしてそこで力強く生きる現地の方々です。報道で見るよりも、実際に目にする光景はとてもショッキングで、自分が同じ立場だったらどれほど辛いだろうと考えても想像し難いものがありました。ただ、その時お会いした被災者の方はとても明るく、私たちを迎えて下さいました。当時の状況を細かく教えてくださり、「始めは頭を抱えたけど、近隣の方と協力し工夫をすることでなんとか乗り越えてきた。今は次に向かって動いていけないといけない。でも自分達だけではどうすることもできない」と話して頂いたことが強く印象に残っていました。

今後に向けて頑張りたいけど、自分達ではどうしようもないというのは、なんとも悩ましい状況でした。また、被災された方の中には、まだ先の事を考える余裕のない方もおられるかもしれません。だからこそ、何か少しでも現状を変える必要があると思います。

そんな想いで望んだ今回のひのきしん内容は、豪雨の影響で溜まった土砂の撤去でした。訪問したお宅の前にある田んぼやその周り一面が土砂と、それに混ざるゴミや流木で覆われていました。隣には川が流れていますが、そこには電柱が横たわり、ガードレールは見たことない形に捻れ、千切れていました。まだ、災害の爪痕は強く残っているんだと言葉を失いました。主な作業内容は用水路に溜まった土砂の掻き出しです。ひたすらスコップで土砂をすくい、運び出す作業で、時に土管の中に入り暗所の中、両手両足をつきながら土砂を掻き出すということもありました。聞くとところによると、民間業者では引き受けられない案件だったらしく、長い間ご苦労されていたのだと思います。終わる頃には全身がドロドロになりましたが、作業中はこれで少しでも依頼者の方の生活が楽になり、先に向かって進んでもらいたいという気持ちでひのきしんに当たらせてもらいました。

今回のひのきしんでは全ての土砂撤去はできず、引き続き支援が必要です。一度の支援活動で全てが元通りになるわけもなく、この活動を続ける事が重要だと感じました。災害の影響はまだまだ残っており、復興には時間がかかるのだと思います。ただ、前回よりも道路の修繕などはされており、少しずつですが変化はあります。次回は是非ともこの感想文を読んでもらった



方と被災地に行ける事を願っています。また、どんな形でも支援は可能ですし、現地に行かずともできることなどもありますので、お互い助け合って生きましょう！

「34歳と被災地」

松田 道和（旭東都分会）

初めて「被災地」と呼ばれる場所に向かう。

熊本、東北、千葉、色んな人生のポイントで周囲で起こる出来事に、圏外からの「支援」のみで、その地で行動する機会を逃してきていた。

34歳、ふと後ろ髪を引かれる思いで振り返ると思ってしまうことがある。

もうここまでくると、他の予定を理由に避けていたのではないだろうか。

今回、予定も調整して、行くことが出来る機会が巡ってきた。初めて、被災地に向かおうと決めた心に一つ影が落ちた。「お前、遅すぎやしないか？もっと早くに行動に移せたのでは？」湿った背徳感が纏わりついた。

私の奥さんは、独身時代、災害ボランティアのあちこちで担当を持って指揮して、2トントラックなんかをゴロゴロ運転して、務めていた経験があるらしい。

オレンジ色の豆電球を眺めながらポロッと奥さんに打ち明けると、「私が行かせてもらおうと思ったのがその時だけで、あなたが行かせてもらおうと思った時が、今だけ。重要なのは、決めた自分の心を大切にすること。何も遅くないし、恥ずかしいことはない。」

こうして私はハト胸を張って東京から関西に向かう夜行バスに乗れた。

案の定、バスのシートサイズでは、ガンダムな肩幅が治まらず、隣の人迷惑を考慮して、すぐはと胸はスズメほどに萎めた。

閑話休題。

支度を整えて、大教会から車2台で夜を走る。雪は除雪やら融雪がされていて路肩に多少あるくらいだ。金沢をすぎると朝靄の中から被災の跡が見えてくる。子供がつなぎ合わせたような凹凸の道路。材料ごとに仕分けた大きな山々がよく見える。元は家の立派な柱たちだったろうものが、崩れない程度の乱雑さで山積みに重ねられていた。あのやたら大きいのは、大黒柱だったのだろうか。

道中を車から眺めながら考えてしまうことは、向こうのひのきしんセンターを開設してくれている教会に、どんな顔で入ったら良いかなどだ。何気ない自分の態度が嫌な気持ちにさせないか。

言葉に気をつけよう。準備からキャンプの事前研修を彷彿とさせる、こちらのテンションと気持ち悪い高揚感は、被災地という場にこのまま持って行って大丈夫なのだろうか。

目指す珠洲市は石川県を手で真似た時の中指あたり。先の先だ。

到着して、珠洲ひのきしんセンターである竇立分教会に挨拶をする。恐る恐る顔をあげると、にこにこ迎えてくれる会長さんと、奥さまがいらっやっした。そこには被災者としてではなく、ようこそおかえりと言わんばかりの親心満天の言葉と態度で、まさに用木として立つ御夫婦の姿があった。私はその陽気さに思わず目を伏せた。とんだ間違いをしていた。私はボランティアではなくて、日の寄進にきたんだ。何を考えていたんだ。仮にも「日」と名前のつく大教会から送り出してもらったにも関わらず、陽気を最初に届けずに、逆に貰ってしまうなんて。

自分の精一杯の陽気に努めよう。同じ経験をしてない私が今出来ることは、今必要とされている、今与えられた事を、一所懸命陽気さをもって努めることだ。

被災地でのひのきしん現場は、民家前の溝掘りだ。1.5メートルちかい側溝に土砂が流れ込んでいる。入ってみると膝まで埋まるほどに重い泥になっていた。側溝蓋を持ち上げたり、スコップで掻き出したりしながら、「がむしゃら」に汗をかいた。道路を挟んで向かいには、広大な土地に流れ込んだ残土、流木、電柱、家だったろうモノ、ガードレール。そこが一面が田んぼだったという事実が目の前に広がっている。がむしゃらでないと、心に乾いた風が通りぬけ、虚無感なのか呆然とただただ時間が過ぎそうでやたら怖かった。

作業は時間切れとなり、やり終いまでには至らなかった。ひのきしんセンターの1カ月のスケジュールボードには多くの教会や教区、支部、個人などが多く書かれていた。代わる代わるでひのきしんの想いを次の教友に託していることに気付かされる。託された大事さが託す時に分かるような、歯がゆさと熱情の想いで一杯になる。その想いを、心倒さずに、次のひのきしん者に流してくださる親心が、ひのきしんセンターとして担う教会にあるからこそだなあ、有り難いなあ、尊いなあ、とまた頭が自然と下がりながら、帰路を目指した。



山村 光生 委員



松田 道和 委員

能登半島災害救援ひのきしん動向表2/28~3/2

~2月28日(金)~

22:00 旭日大教会 集合

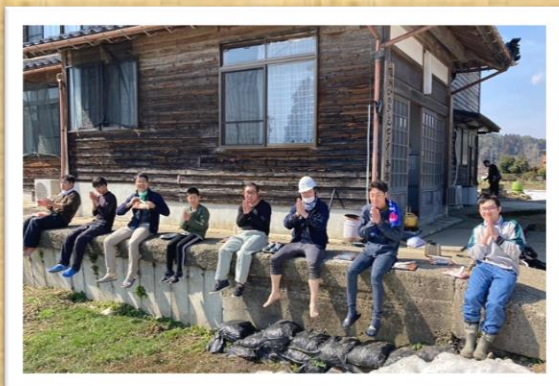
22:20 教会本部 参拝



~3月1日(土)~

8:05 珠洲ひのきしんセンター事務局
實立(ほうりゅう)分教会 到着

9:00 災害救援ひのきしん 出動



16:30 災害救援ひのきしん 終了

19:45 金沢市内「ゆめの湯」に到着

計画段階では日本海側の豪雪が心配されましたが、雲一つ無い晴天の中でひのきしんに励ませていただきました。負荷の高い重労働でしたが、隊員達は晴天心で明るい言葉を掛け合っていました。

～3月2日(日)～

8:30 「ゆめの湯」出発

9:20 雨天によりゴミ拾い @金沢駅周辺



11:00 昼食

11:40 金沢市内を出発

16:30 旭日大教会 到着
参拝 & 会長宅ご挨拶 & 振り返り

17:30 解散



皆様方のお陰をもちまして、事故・けが無くつとめさせていただきました。誠にありがとうございました。

能登半島災害救援ひのきしん隊 出動協力金のご報告（2/15～3/15）

□ご寄付

計 93,413 円（計 7 件）

□アルミ缶およびプルタブ回収

計 15,150 円

□合計

108,573 円

この度は、能登半島災害救援ひのきしん隊の出動に際し、さまざまな面でお心添えを賜り、誠にありがとうございました。

次の出動は9月頃を予定しております。

アルミ缶とプルタブの回収は常時行っておりますので、引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。

